

PAN-WALL工法〈切土補強土壁工法〉

PAN (Panel And Nail) Wall工法は急勾配斜面安定工法の1つである切土補強土工法の理論に基づく工法です。補強材には従来から使用されている鋼棒を用いますが、表面保護工にはモルタル吹付けやコンクリート吹付けの代わりにコンクリート板を用い、現場作業量の低減と意匠デザインの多様化に対応します。

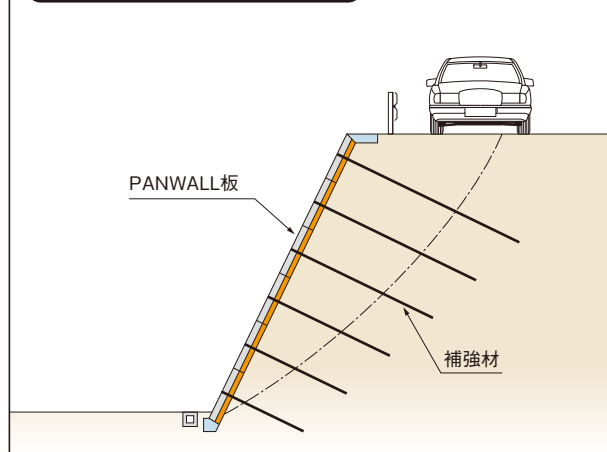
●特長

1. 構造物を上から下へ仕上げながら切り下がる逆巻き施工が基本で、余分な切土や埋め戻し作業が発生せず、土工量が低減できます。
2. 掘削断面が最小限で済み、森林、緑地等の周辺環境への影響を少なくできます。
3. 表面保護工のプレキャスト化により、工期短縮と省力化が可能となります。
4. コンクリート板は工場生産のため品質に優れ、表面の意匠も様々に対応ができます。
5. 高所作業がほとんど発生せず、きわめて安全性の高い工法です。



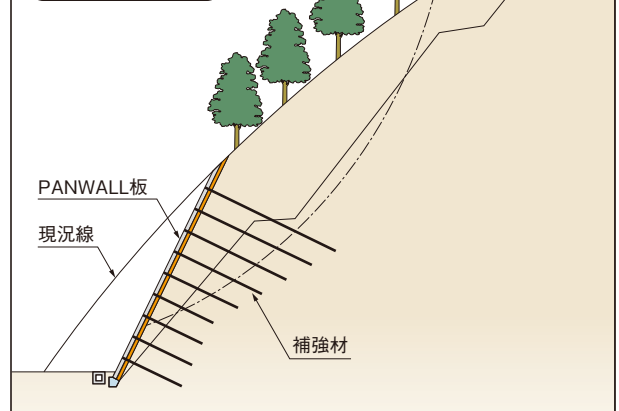
主な用途

既設道路・構造物・境界の保護

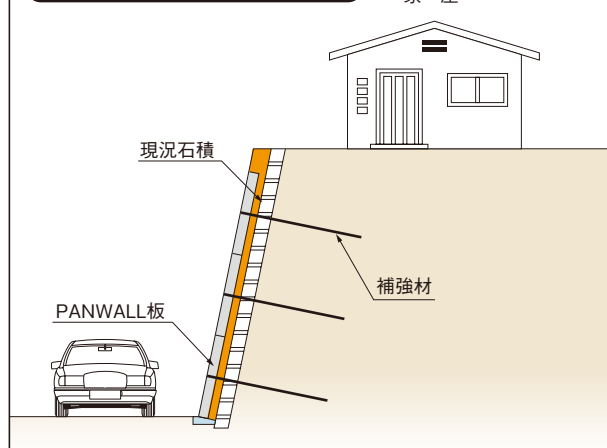


長大法面の低減

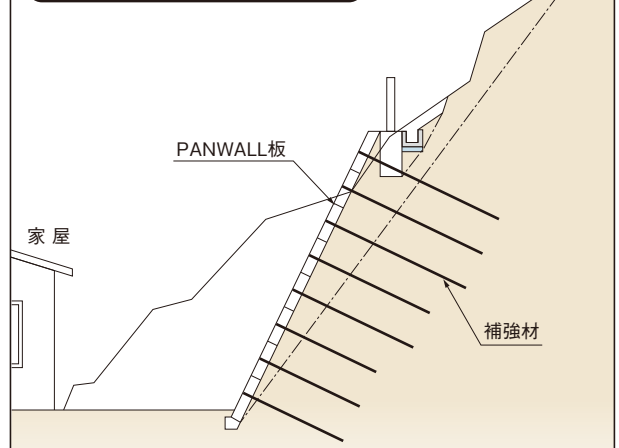
自然法面の保護



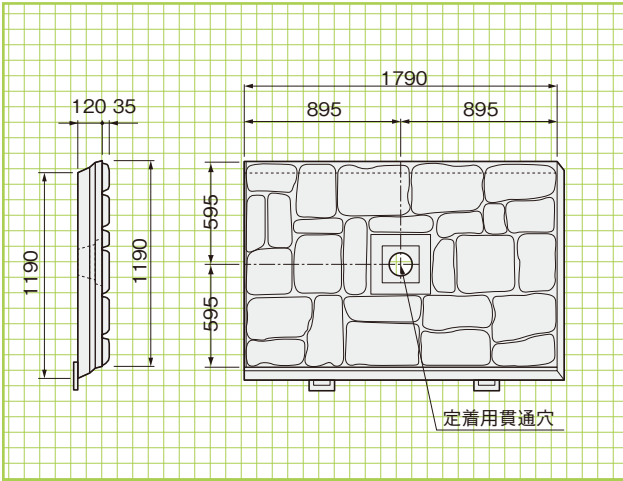
既設石積・風化岩盤の補強



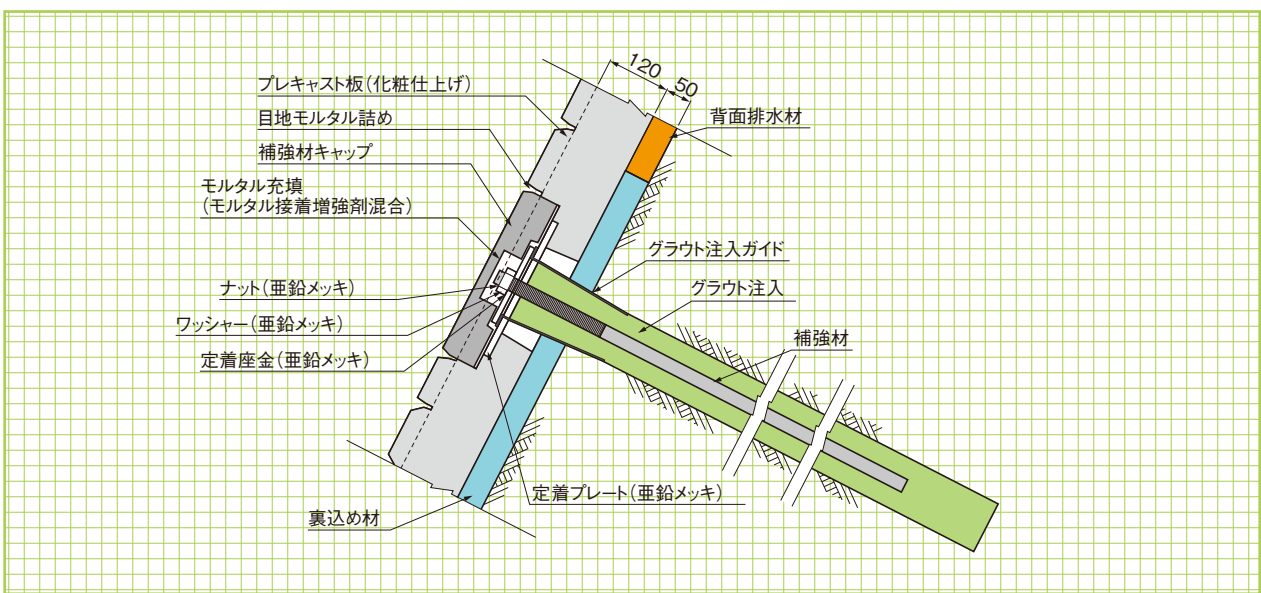
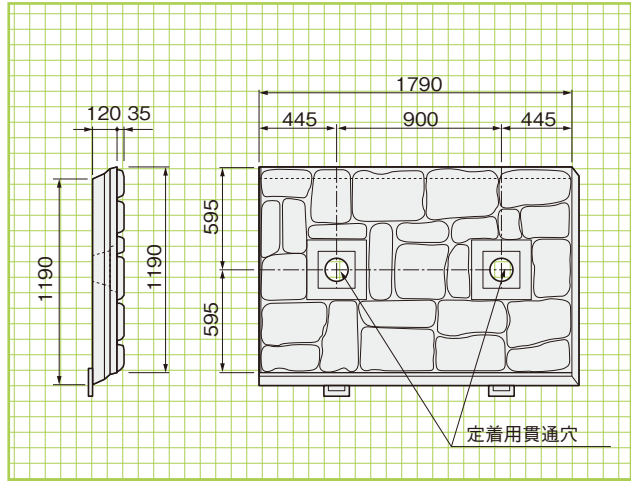
急傾斜地崩壊対策事業



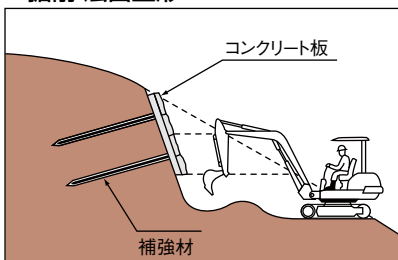
Sタイプ(1穴)



Dタイプ(2穴)

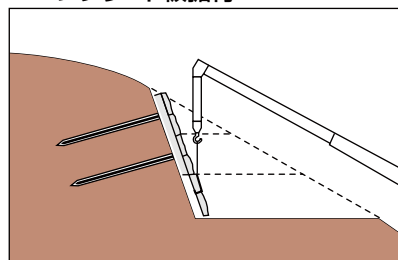


1.掘削・法面整形



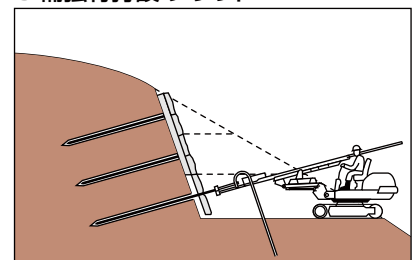
バックホー0.4m³クラスにて、パネル1枚分(約1200mm~1300mm)掘削します。その後透水性と裏込注入パイプをセットします。

2.コンクリート板据付



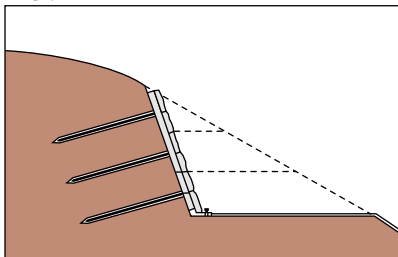
専用の吊り具を使用して、所定の位置にコンクリート板をセットします。

3.補強材打設・グラウト



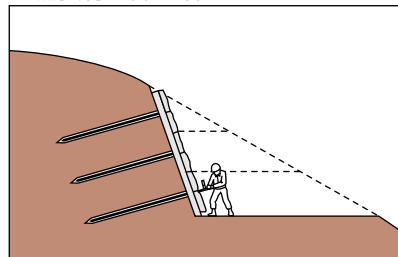
ボーリングマシン等を使用して削孔し、補強材を挿入した後、グラウト注入を行います。

4.裏込注入



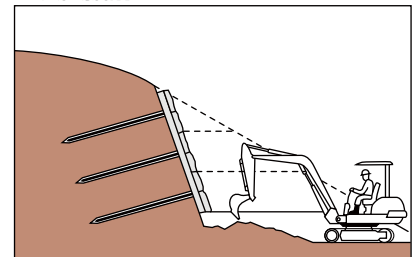
コンクリート板と地山との隙間に、セットしておいた注入パイプを介して、モルタルを注入します。

5.補強材頭部定着



トルクレンチにより補強材頭部を定着し、その後にキャップを装着します。

6.次段掘削



次段以降は1~5の繰り返し作業になり、最終段施工完了後に基礎工を施工します。